

泊瀬リさまなの見そなはして、山野のあら舉コ暮モ利リ矩ケ能ノ播ハ都ツ制セ能ノ野ヤ磨マ播ハ紀キ万マン葉ヤ卷クワン一イチに、隱コ國クニ乃ノ泊ハ瀬セ乃ノ川カハ爾ニまた、隱コ口クハ乃ノ泊ハ瀬セ之ノ山ヤマ卷クワン三サンに、隱コ久ク乃ノ始シ瀬セ乃ノ山ヤマ爾ニ卷クワン十三ジュウサンに、隱コ來ライ笑セウ長チヤウ谷コ之ノ河カ、また、己コ母モ理リ久ク乃ノ泊ハ瀬セ之ノ河カ之ノ云ク々クワン猶ユウ多タけれど、さまんんには擧キには右ミダの隱國クニと書キるコトを正しキ字ジならむ山ヤマふところ弘くかこみたる所トコロならば籠り國の長谷コといふべきもの也國クニを久といふは吉野ノの久孺コを國栖スと書キがことし且日本ノ紀キ万マン葉ヤなどに、初ハツ瀬セの國、初ハツ瀬セ小コ國クニともいひたり難波ノの國、吉キ野ノの國又マタ此コノ處トコロは左右ニに山ありて、内ウチは長く廣くて、入イるベき口の狭かれば隱り口のはつ瀬てふ意イともすべし、されど猶前マなるぞ古コき意なるベき、後ノ人ヒト古コきふみどもに、假カ字ジにて右の如く書たるをもこもりとませといひ泊ハ瀬セの泊を古へ波都ツ留ルとよむ事をもおもはりとませとよめるなどは餘ヘりてしれ人ヒトのわざなり、

〔和州巡覽記〕初瀬 迫瀬とも書又長谷とも云此地三輪より先は兩山澗水を夾んで谷中長き故に長谷と書なるべし隱口のはつせと云も山の口かくれこもりておくふかければいへるなり櫻井より是まで一里半有麓の町民屋多し長谷寺は元正天皇養老五年に創立又文武天皇の御時徳道上人これを造立すとも云

〔萬葉集〕雜一歌 輕皇子宿于安騎野時柿本朝臣人麿作歌  
八隅知之吾大王高照日之皇子神長柄神佐備世須登太敷爲京乎置而隱口乃泊瀬山者眞木立荒山道乎石根禁樹押靡坂鳥乃朝越座而玉限夕去來者三雪落阿騎乃大野爾旗須爲寸四能乎押靡草枕多日夜取世須古昔念而

三諸山

〔書言字考節用集〕乾二坤三諸山今作三室和州城上郡 〔同二坤三輪山則三諸山也所縮之絲三

〔圓珠庵雜記〕みわ山をみむろ山ともよめりこの外にまたみむろ山あり

〔頭注〕

古事記云此者座御諸山上神也云々宣長云三輪山を御諸山といへるはこゝをはじめにて中卷水垣宮の段書紀同御代の卷などに見え又繼體卷の歌にみもろがうへにのぼりたちとあ